

# 県内における医師の状況と今後の医師 確保対策について

和歌山県福祉保健部健康局医務課

# 今後の医師確保対策について

## 【ご協議いただきたい内容】

- 令和5年度から医大地域医療枠、医大県民医療枠の1期生が義務明けとなる等、医師全体の増加が見込まれるなか、県内公立・公的病院への定着を図る事業を実施していきたい。
- また、医師の働き方改革が令和6年度から適用されることを踏まえて、地域公立病院としてどのような対策が必要かも併せて、今後の事業として検討していきたい。



- 以上2点でどのような対策が必要かを検討する上で、県内の公的等病院を対象に実態調査・アンケートを実施することとしてはどうか。

# 医師確保を取り巻く状況

## 【目下の状況】

- 医師確保計画（R2年度～R5年度）  
＜三次医療圏における医師確保方針と施策の方向性＞

➤ 医学部地域枠を継続し、将来にわたる地域医療を担う医師の確保  
⇒臨時定員の継続を国へ要望

➤ 県内での初期臨床研修医の確保  
⇒臨床研修医の確保対策の推進  
初期臨床定員の維持を国に要望

➤ **県内への医師定着促進**、地域の公立・公的病院勤務医等の確保  
⇒勤務環境の改善、指導体制の充実

➤ 特定診療科の医師確保、専門医確保  
⇒研修・研究資金の貸与制度の運用  
県外医育大学と連携した本県への医師派遣  
専門研修募集定員の維持を国へ要望

# 医師確保を取り巻く状況

## 【目下の状況】

- 和歌山県の医療施設従事医師数の推移

単位：人

	H10	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30	H16→ H30増加数
和歌山保健医療圏	1,328	1,383	1,430	1,445	1,485	1,528	1,517	1,573	1,608	1,680	1,696	251 (74.0%)
増減数		55	47	15	40	43	-11	56	35	72	16	
和歌山以外の 保健医療圏	961	990	1,016	1,041	1,047	1,073	1,081	1,087	1,086	1,088	1,129	88 (26.0%)
増減数		29	26	25	6	26	8	6	-1	2	41	
県全体	2,289	2,373	2,446	2,486	2,532	2,601	2,598	2,660	2,694	2,768	2,825	339 (100.0%)
増減数		84	73	40	46	69	-3	62	34	74	57	

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

- 県内勤務医数は増加しているが、臨床研修が必修化されたH16年度以降増加分の多くは和歌山保健医療圏。
- 但しH30調査では、H28年度と比べ、和歌山以外の保健医療圏の増加数（41名）が和歌山保健医療圏の増加数（16名）を上回っており、増加数もH10年以降最大。

# 医師確保を取り巻く状況

## 【目下の状況】

- 和歌山県の**病院従事者**の推移

単位：人

	H10	H12	H14	H16	H18	H20	H22	H24	H26	H28	H30	H16→ H30増加数
和歌山保健医療圏	835	852	889	933	956	978	996	1,047	1,064	1,119	1,153	220 (66.9%)
増減数		17	37	44	23	22	18	51	17	55	34	
和歌山以外の 保健医療圏	482	497	526	528	539	559	565	571	576	590	637	109 (33.1%)
増減数		15	29	2	11	20	6	6	5	14	47	
県全体	1,317	1,349	1,415	1,461	1,495	1,537	1,561	1,618	1,640	1,709	1,790	329 (100.0%)
増減数		32	66	46	34	42	24	57	22	69	81	

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

- 県内病院従事者数は増加しているが、臨床研修が必修化されたH16年度以降増加分の多くは和歌山保健医療圏。
- 但しH30調査では、H28年度と比べ、和歌山以外の保健医療圏の増加数（47名）が和歌山保健医療圏の増加数（34名）を上回っており、増加数もH10年以降最大。

# 医師確保を取り巻く状況

## 【目下の状況】

- 今後の義務年限内・義務年限終了後医師の状況

○義務年限内医師数実績・推計

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
医大・県民医療枠	0	16	23	33	45	57	78	91	88	92	102	93	85	92	96	86	84	82	81
医大・地域医療枠	5	8	14	14	20	25	33	31	30	34	40	45	44	41	45	49	49	50	50
近大・和歌山県枠	0	0	0	2	4	11	11	10	10	13	15	19	18	14	7	8	10	8	4
県地域枠合計	5	24	37	49	69	93	122	132	128	139	157	157	147	147	148	143	143	140	135
自治医科大学	11	13	16	13	9	7	12	15	14	12	11	9	10	12	12	11	11	11	11
合計	16	37	53	62	78	100	134	147	142	151	168	166	157	159	160	154	154	151	146
(県民枠・義務終了後)								15	31	59	78	101	125	148	166	198	221	244	265
(地域枠・義務終了後)								5	8	14	18	27	34	43	49	54	64	73	83
(近大枠・義務終了後)											3	7	11	14	17	18	20	24	30
合計								20	39	73	99	135	170	205	232	270	305	341	378

令和5年度に医大地域医療枠・県民医療枠第一期生が義務年限終了（赤枠）。

⇒今後義務年限終了医師が増加することを踏まえた施策が必要。

# 医師確保を取り巻く状況

## 【今後の課題】

- 令和5年度以降の地域医療枠・県民医療枠義務年限終了後の医師が、県内に定着すれば、地域の公立病院の医師不足が解消されると期待

⇒義務明け医師の定着率が課題

(参考) 自治医科大学卒業医師 義務年限終了者の状況

勤務先	県内			県外	合計
	勤務医	開業	計		
人数	40	17	57	16	73
(%)	55	23	78	22	100

- 令和6年4月より医師の働き方改革が本格実施
  - 令和6年度からは年960時間・月100時間で実施  
(地域医療確保暫定特例水準 (B水準) : 年1,860時間・月100時間)
  - 将来的 (地域枠・地元枠の増員効果がある程度蓄積した時点) には、特例水準の解消も (「医師の働き方改革に関する検討会」参考資料)  
⇒令和6年度以降も続く働き方改革の対応に向けて、医師の定着に加え、業務分担等の観点からの対策も必要

# 今後の医師確保対策に向けてのアンケート実施

## 【今後の進め方】

- 義務明け医師を県内の公立・公的病院へいかに定着させるか
- 令和6年度からの医師の働き方改革が近づく中で、どのような対策が必要か



- 事業立案に向けて、「義務明け医師の県内定着」「働き方改革への対応」の観点から、県内公的等病院への実態調査・アンケートを実施してはどうか。

- 事業実施は令和3年度を予定（予算措置が必要な事業は、令和4年度から）

### <スケジュール>

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内容	アンケート実施			★県民医療枠・地域医療枠 1期生義務年限終了
	事業内容検討			
		予算要求		
		●事業実施	→	